

「まちづくりの現場から」

特集
まちづくりの現場から

このコーナーは、上毛町第1次総合計画に掲げられた目標を実現するために町が取り組んでいる事業のプロセスや課題などを、毎月シリーズで紹介するものです。
今月は、「地域ぐるみでの支えあい活動事業」の現場からお届けします。

高齢化社会に対応した新しい社会づくりを目指して

地域に暮らす全ての人が生涯いきいきと暮らしていけるように



地域ぐるみで福祉のまちづくり



敬者のつどい
高齢者に感謝と敬意を表し、町をあげてのお祝い



シルバー人材センター
社会参加を通じた生きがいづくり

高齢化の実態と課題

上毛町の高齢化率（65歳以上の割合）は、平成22年10月現在30.1%に達し、福岡県では5番目に高い水準となっています。最近の推移を見ても、確実に高齢化が進んでおり、高齢者のひとり暮らし世帯や高齢者のみの世帯は、1,000世帯に達しています。

また、家族や地域における人とのきずなが薄れ、孤立してしまうなど、高齢者世帯が抱える課題は、多岐にわたっています。

その不安を解消し、地域に暮らす全ての人が、住み慣れた地域で、健康で安心して生涯いきいきと暮らしていくためには、地域ぐるみの見守りや交流が必要になってきています。今後、その支援の輪を広げて行くことがますます求められています。

家族との関係がうまくなっていない
高齢者が高齢者の家族を介護している

地域と関わりが薄れ閉じこもりがちになっている

高齢者世帯が抱える生活課題

病気などの緊急時の対応が心配

調理が出来ず満足な食事が取れない

認知症への対応で困っている

気軽に相談できる人がいない



頼りにする親族が身近にいない

支えあいの地域づくりに向けて

高齢者世帯の抱える生活課題を克服するため、社会福祉協議会をはじめとする福祉関係団体、そして地域の方々や協力・連携しながら、地域に暮らす全ての人がいたわりあい、支えあう地域づくりに取り組んでいます。

ひとり暮らしや高齢者のみの世帯の方を対象とした見守りネットワーク

地域ぐるみの見守り体制を整備するために、社会福祉協議会と共同で、民生委員、福祉委員、自治会長、老人クラブの代表者をメンバーとした連絡会議や自治会単位の地区別会議を開いています。見守り対象者マップの作成や情報の共有などを行い、定期的な訪問などの見守り活動に役立てています。

現在、見守りが必要とされる世帯は、約650世帯あります。民生委員や福祉委員さんの定期的な見守り運動のほかに、ご近所の声かけなど日頃のさりげない見守りが地域の皆さんの安全を支えます。

「どうしたのかしら？」「ちよつと心配・・・」といった身近な「気づき」は、些細なことでも、すぐに役場や社会福祉協議会にご連絡ください。



西友枝1・2区の地区別会議の様子

もしものけがや急病でも「あんしんバトン」

もし、何かあった時に自分の情報をいち早く知ってもらうことができれば、緊急時におけるすばやい対応が可能となります。そのため、あらかじめ必要となる救急医療情報（かかりつけ病院、緊急連絡先、いつも飲んでいる薬、持病など）を書きまとめたものを、専用容器に入れ、冷蔵庫を所定の場所として保管する「あんしんバトン」普及事業を本年度から推進します。バトンの保管を冷蔵庫と定めることで、保管場所も共有でき、すぐに取り出せることが特徴です。

また、冷蔵庫の正面扉にステッカーを張り、バトンの保管場所が分かる仕組みとなっています。

「あんしんバトン」は、70歳以上の高齢者のみの世帯などを対象に配布し、7月以降に民生委員さんや福祉委員さんの訪問により、普及活動に取り組めます。

「あんしんバトン」はもしもの時の「パートナー」の合言葉のもと、急病や怪我そして災害などの緊急時の迅速な対応と適切な処置に役立ち、命を守ることに繋がることがを願っています。



あんしんバトン シンボルマーク



●問い合わせ先 健康福祉課 福祉医療係 TEL 72-3111
上毛町社会福祉協議会 TEL 72-2900

ご存知ですか？ 在宅介護支援センター

地域の高齢者やその家族に対して、電話相談や訪問活動を行い高齢者の実態把握や、必要な福祉サービス利用のための申請や関係機関との連絡調整を行います。何でもお気軽にご相談ください。

- 在宅介護支援センター新吉 TEL 84-7110 (げんきの社内)
- 在宅介護支援センター大平 TEL 72-4550 (たいへい苑内)

栄養バランスの良いおいしい食事お届けします 「配食サービス事業」

高齢者の方がいきいきと生活していくためには、毎日バランスのとれた食事をとることが重要です。自宅で生活をしている高齢者や調理が困難な方に、栄養バランスのとれた食事を提供するため、必要に応じて月曜日から金曜日の昼食と夕食を1食300円で自宅へお届けする配食サービスを行っています。
現在、このサービスを利用している方は約90名で、6名の配達員さんが、栄養バランスに配慮した温かい食事を配達しています。
配食サービスは、食事を届けるだけのサービスではなく、利用者の方へは必ず手渡しを行い、安否の確認やしっかりと食事が取れているかなど、健康チェックを担っています。おいしい食事はもちろん、配達員さんの「笑顔」が利用者の方々の暮らしの支えとなっています。



新谷西地区ふれあい いきいきサロン



原井地区ふれあい いきいきサロン

高齢者の健康・交流の場をつくる 「ふれあい・いきいきサロン」

社会福祉協議会では、地域の皆さんがボランティアと一緒に仲間づくりや健康づくりを行い、楽しみながら交流を深める「ふれあい・いきいきサロン」を推進しています。「ふれあい・いきいきサロン」では、保健師などによる健康チェックに始まり、無理なく体を動かす体操やゲーム、そして会食や茶話会などが行われています。

この活動は地域の集会所などを拠点に、地域単位で開催され、現在は新谷西・下野地・原井・百留・吉岡・安曇地区の6カ所で行われています。毎月1〜2回の集まりでは、心温まる活動に参加者の笑顔があふれ、地域の和が広がっています。ぜひ、あなたの地域でもサロン活動を始めてみてはいかがでしょうか。

一人暮らし高齢者の強い味方！ 「緊急通報装置・人感知センサー」

緊急通報装置は、緊急時の不安を解消し、自宅で安心して暮らしていただくための必需品として、現在約1300世帯に貸与しています。

この装置は、急病などの緊急時に非常ボタンを押すことで、京築広域圏消防本部へ直ちに通報が入り、協力者への連絡や救急出動などの迅速な対応を可能とするものです。また、相談ボタンを押せば、町内の在宅介護支援センターに直結し、24時間体制で健康や生活面の相談、悩みなどを受け付け、在宅高齢者を支援しています。

また、本年度から、8時間以上センサーに反応がなければ、ボタンを押さなくても自動で異常を感知する「人感知センサー」を緊急通報装置に付加しました。センサーが異常を感知した場合は、離れて暮らす家族などへメールでお知らせし、多くの利用者が感じていた「万が一の際、ボタンを押せないのではないか」という不安の軽減を図っています。

地域における人的な見守りに機械的な見守りに加え、高齢者の在宅生活を支えます。



緊急通報装置 人感知センサー



配達員として活躍されている方々